

<全体分析>

試験時間 2科目 120分

解答形式

記述, 論述, 選択, 描図

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問数は昨年と同じ3題であり, 論述量は昨年より増加したが, 描図問題の数が昨年と比べて大きく減少したことから, 全体の分量は昨年並みであった。また, 昨年と同様に知識を問う論述問題の出題が多く, また, 解答に時間のかかる考察問題も昨年と同様に出題されており, 難易度も昨年並みであった。

出題の特徴

出題の中心は論述問題であり, 知識論述のほか, 実験案を考える問題などが出題される。また, 描図問題の出題頻度が高い。全体の論述量が非常に多く, 試験時間内にすべての設問に解答するのは困難である。

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

過去に出題が続いていた, データをまとめてそれを分かり易いグラフにまとめる問題が, 昨年に引き続き今年も出題されなかった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	記述 論述	遺伝子 進化・系統 恒常性 細胞 タンパク質	生物 基礎 ・ 生物	問題1b2) 解答例は一般によく言われることであるが, 近年, 選択的スプライシング産物の6割以上が翻訳されても機能をもつタンパク質を合成できないことなども報告されており, 実際にはまだ結論は出ていない。	標準
2	記述 論述	神経 行動 進化・系統 免疫 遺伝子 恒常性	生物 基礎 ・ 生物	問題1b) 短期記憶能力が「見たものを短時間で記憶する能力」であることを理解して書いた答案であればよいであろう。	標準
3	記述 論述 選択 描図	行動 生殖 恒常性 遺伝子 進化・系統	生物 基礎 ・ 生物	問題3 3) TがCに置換することで, あるアミノ酸がプロリンに変わるのは, 4番目のコドンの1番目のT, または, 8番目のコドンの2番目のTの置換の場合であるが, 4番目のセリンの方が種を超えて保存されていることから, このアミノ酸が置換した場合の方がデカペプチドの機能低下が起りやすいと考えられる。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・教科書レベルの基本的な知識を身につけ、これを正確に論述できるように練習を重ねよう。
- ・過去問の演習を通して、東京医科歯科大で特徴的な出題（データをグラフにまとめる、模式図やフローチャートを描く など）に慣れておこう。
- ・描図問題の対策として、教科書に記載されている図やグラフをよく確認しておこう。
- ・試験時間に対して問題量が膨大なので、問題演習を重ねて問題文の読解や解答作成の速度を上げるとともに、自分が解ける問題から解き始める習慣を身につけよう。